



性犯罪者の現状

筑波大学 原田隆之

スライドの構成



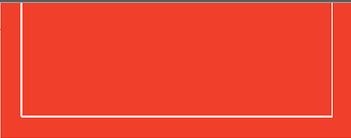
1 性犯罪者の実態



2 性犯罪者の多様性

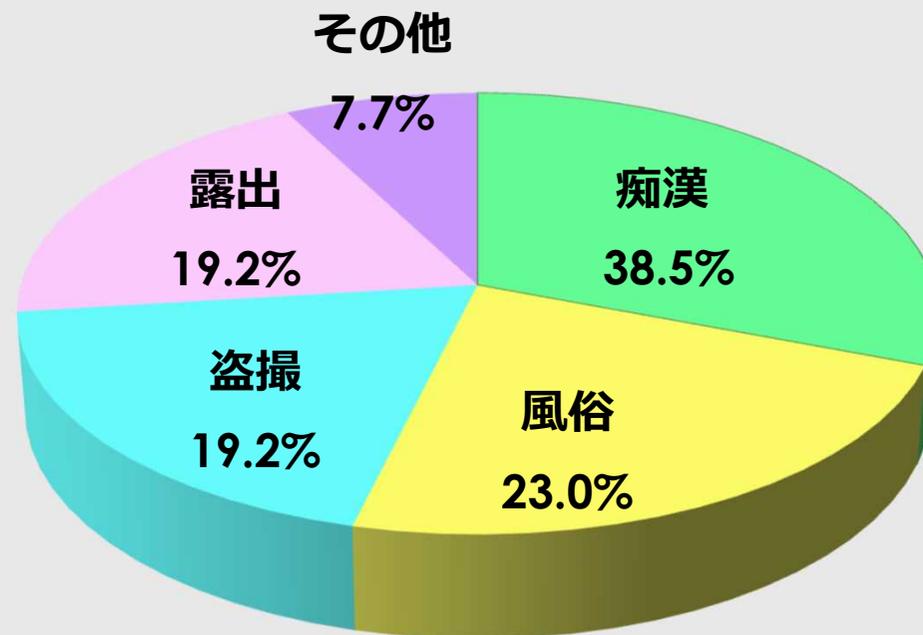


3 再犯防止
(アセスメントと治療)



性犯罪者の実態

「性的問題行動」で受診中の人々の内訳



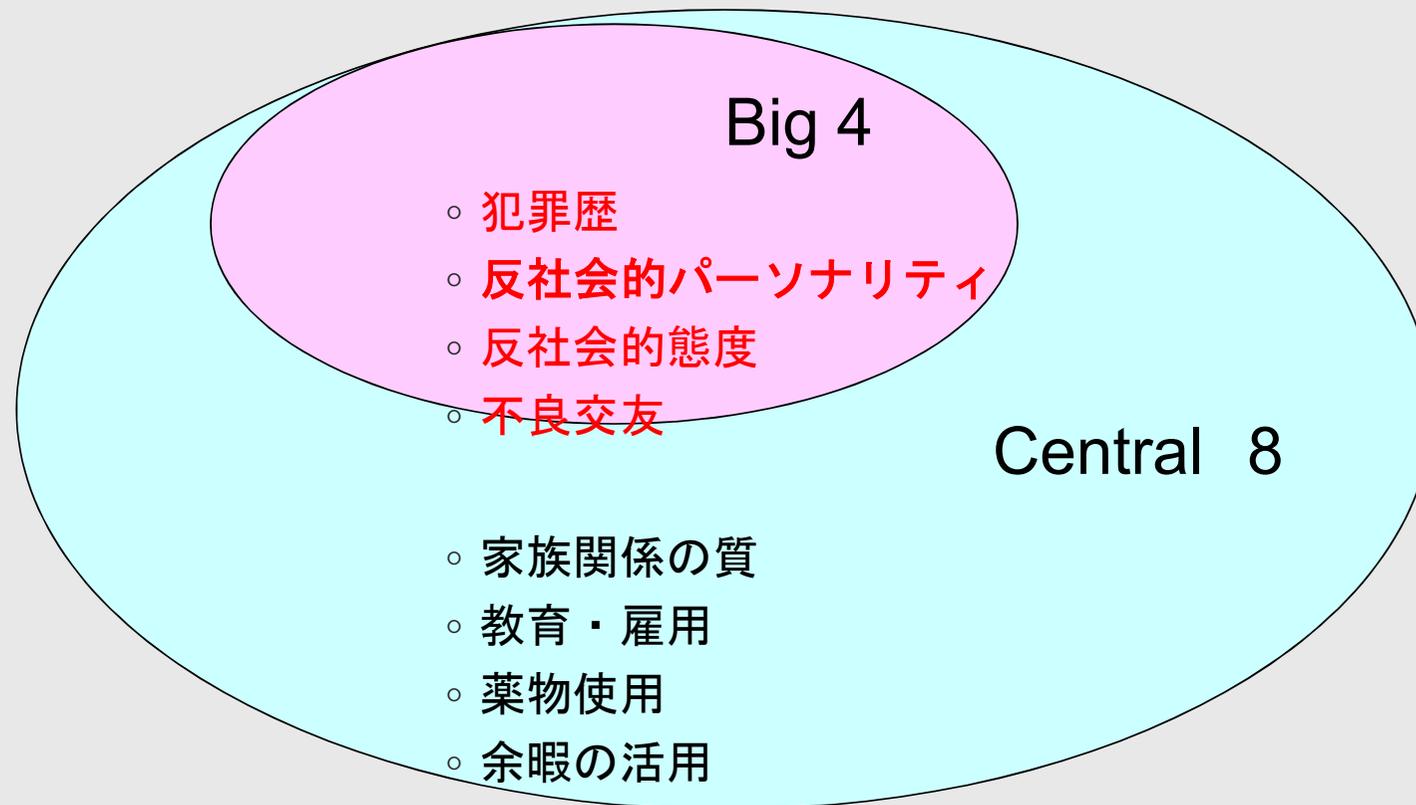
人口学的変数

項目	治療群	待機群	統計値
年齢	35.5±8.8	36.7±11.0	t (36) =0.56, ns
教育 (大卒上)	34 (50.0)	36 (52.2)	X ² (3) =0.55, ns
雇用 (フルタイム)	19 (27.9)	25 (36.2)	X ² (3) =21.12, p<0.01
婚姻状態 (未婚)	39 (72.1)	52 (75.4)	X ² (2) =0.27, ns
前科	49 (72.1)	52 (75.4)	X ² (1) =0.06, ns
重複障害 (あり)	3 (4.4)	6 (8.7)	X ² (2)=2.24, ns
問題行動 (痴漢)	29 (42.6)	28 (40.6)	X ² (4)=1.10, ns
初発年齢	23.0±6.4	26.5±10.8	t(136)=0.56, ns
Static-99	3.4±1.5	3.8±1.7	t(136)=0.44, ns

性犯罪のリスクファクター

- 本質的には、一般犯罪と変わらない
 - 性犯罪者は性犯罪だけをするとはい限らない
- ただ、性犯罪特有のリスクファクターもある
 - 逸脱した性的認知
 - 逸脱した性的衝動

犯罪のリスクファクター Bonta & Andrews, 2016



反社会的パーソナリティとは

◦ 行動的特徴

- 社会規範の軽視
- 衝動性
- 無責任性
- 虚偽性

◦ 情緒的特徴

- 冷酷性
- 残忍性
- 共感性の欠如
- 良心の呵責の欠如

◦ 認知的特徴

- 社会規範の軽視
- 暴力を容認する価値観
- 敵意帰属バイアス
- 反社会的認知のゆがみ

性に関する認知のゆがみとは

- 向こうも望んでいた
- 向こうから誘ってきた
- 露出の多い服を着ているのは、誘っているのだ
- 1対1で食事に応じたということは、OKの意味だ
- こんなに酒を飲むのは、望んでいるのだ
- 嫌だと言わないのは、同意のサインだ
- 嫌だと言っても言葉の上だけで、嫌がっていないのだ
- 女性は襲われたいという願望をもっている
- 親密な間柄であれば、セックスをしても当然だ
- 一度セックスしてしまえば、こちらのことを好きになる
- 子どもにも性的欲求がある

性に関する認知のゆがみとは

- 性犯罪者だけでなく、実は社会もその多くを共有してはいないか？
 - 被害者にも非があったと責める
 - 多少の被害を騒ぎ立てるななどと犯罪を許容する
 - 抵抗すべきだったなどと、不可能なことを求める
 - 今頃になって騒ぐのは、何か別の意図があるに違いない
 - 被害者はしばしば嘘を言う（嘘の申告をするのは2%程度存在するが、他の犯罪も同様）
- 被害者の心理、性に対する認知のゆがみについての啓発が必要

犯行の際の心理

- 加害者は発覚をおそれ、加害行為を「成功」させるためにさまざまなことを行う
 - 1 段階的な犯行
 - 2 被害者の選択や「関係づくり」
 - 3 中和, 合理化

段階的な犯行

- 一部ではあるが、軽微な犯行からエスカレートするケースがある
- より強い刺激や性的満足を求める
- 比較的軽微な行動で「練習」する
- 性的ファンタジーの反芻と強化
 - アダルトサイト（暴力的性行動、小児ポルノなど）などで逸脱した性的ファンタジーを強める
 - 自分の犯行を頭のなかで反芻する
- アダルトサイト自体が危険だというより、元々犯罪傾向の高い者に対してリスクを増大させる
- 仲間集団がいるときはより危険（オンライン、オフライン）

被害者の選択

- 加害者は発覚をおそれ、加害行為を「成功」させるために被害者を選んでいる
- 衝動的に見知らぬ被害者に加害行為をするよりも、「関係性」の中での加害のほうが多い
- 被害者の弱みに付け込む
 - 身体障害者，知的障害者
 - 未成年者（十分な判断力がない子ども，家出少女，SNS）
 - 力関係，社会的立場（子ども，生徒，患者）
 - 非暗示性の強い相手（マインドコントロール）
 - おとなしそうな相手（抵抗できない）
 - 性風俗従事者（金を払っているのだから，こんな仕事をしているのだから）
- そもそも被害者に同意ができなかったり，一見同意をしているものと見えるようなケースもある



性犯罪者の多様性

認知のゆがみの2つのパターン

- 本心からそう思っているタイプ
 - いつも自分の都合のいいように解釈し、相手の意図を理解できない
 - 相手の表情やノンバーバルなサインが伝わらない
 - 心理学的にはより病理が深いタイプ（次のスライドとも関連）
- 中和の技術として使うタイプ
 - 自分の加害性は理解しており、罪悪感があるため、意識的あるいは無意識的にそれを打ち消そうとして、そのように思い込むタイプ

情緒的問題性

(暴力抑制装置モデル; Blair,2006)

- 人間は、相手の表情（恐怖，不安）を読み取ることで，暴力抑制装置にスイッチが入る
- 心拍の上昇，不安の喚起→ 暴力の停止
- 粗暴犯罪者は，そもそも相手の表情や些細な感情のサインを読み取ることができない
- そして自分の感情も動かない = 共感性の欠如
- 大脳辺縁系の扁桃体の機能異常
- ただし，共感性はある程度は鍛えることができる

4つの性犯罪者のタイプ Hanson et al. (2009)

犯行パターン	自己統制のタイプ	特徴
回避受動型	統制力不足	性犯罪をやめたいとの思いはあるが、統制ができない
回避積極型	不適切な統制	性犯罪をやめたいとの思いはあるが、誤った統制をしている
接近自動型	統制力欠如	認知的・行動的問題が大きく、刺激に誘発され衝動的に犯行に至る
接近確信型	統制の意図がない (逆に十分に統制の取れた犯行をする)	確信と十分に練られた計画によって性犯罪に至る

性犯罪の動機

- 単なる性的衝動だけというものは少なく、人によって多様である
- 最初は性的衝動
 - ストレス発散, スリル, 背徳感, 非日常感, 疑似恋愛関係, 征服欲, 自尊心の回復, 収集欲
- 逸脱した性的衝動によるもの（パラフィリア）
 - サディズム, 小児性愛, フェティシズム, 痴漢や盗撮



再犯防止のための
科学的アセスメントと治療

性犯罪のリスクアセスメントツール

- 世界で最も広く活用されている「**Static-99**」の日本語版を開発
- 性犯罪者の再犯リスク要因のうち、静的(static)な10項目から成る
- 中程度の予測妥当性 (AUC=0.71)
- 167名の性犯罪者（多くは、痴漢・盗撮）に実施し、1年間再犯を観察した

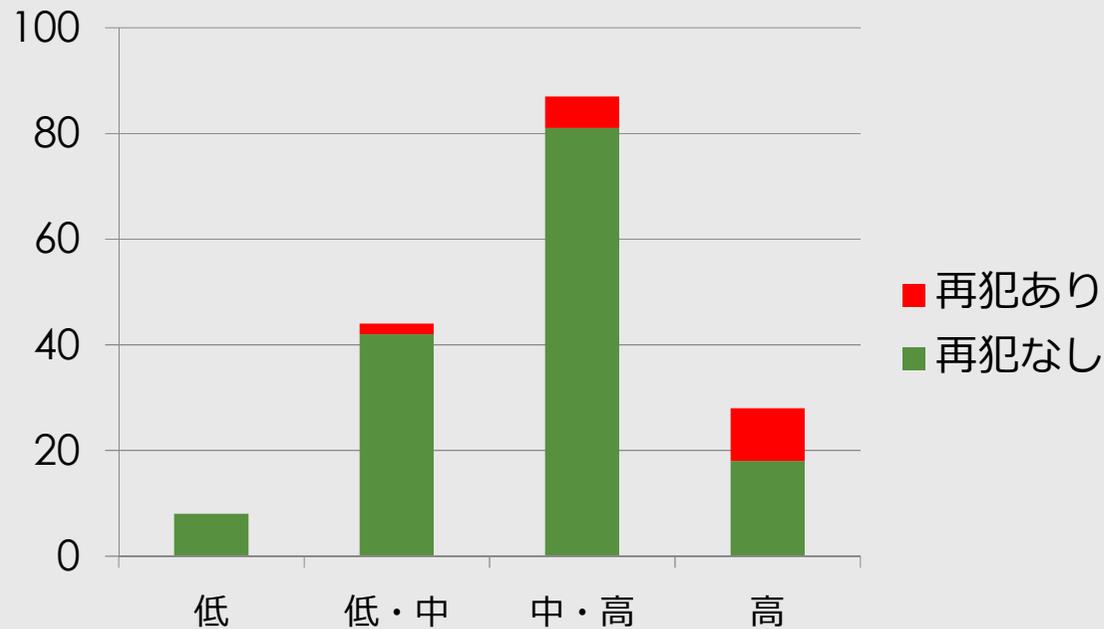
質問項目の概要

項目	リスク要因	スコア
1	若年である（25歳未満）	0-1
2	恋人との2年以上の同居歴がない	0-1
3	本件に重大な暴力犯罪がある	0-1
4	本件以外に暴力犯罪歴がある	0-1
5	性犯罪の前歴	0-3
6	有罪判決数	0-1
7	接触を伴わない性犯罪の前歴	0-1
8	血縁のない被害者がいる	0-1
9	顔なじみでない被害者がいる	0-1
10	男性被害者がいる	0-1

0-1	低リスク
2-3	中・低リスク
4-5	中・高リスク
6以上	高リスク

リスクレベルと再犯との関連

	低リスク n=8	低・中リスク n=44	中・高リスク n=87	高リスク n=28
再犯(%)	0(0.0)	2(4.5)	6(6.9)	10(35.7)



$X^2(3)=14.43, p<0.01$
群間で有意差あり

治療プログラムの概要

- リラプス・プリベンション・モデル（依存症の治療モデル）に基づいた認知行動療法プログラム → 反復される性犯罪を「性的依存症」ととらえて治療
- プログラムの治療要素
 - **引き金の同定と対処(コーピングスキル訓練)**
 - 行動分析
 - 渴望のマネジメント（思考ストップ法）
 - 毎日の生活スケジュールの策定
 - 自己モニタリング
 - **認知再構成**
 - 陰性感情のコーピング，ストレス・マネジメント
 - **共感性訓練**



引き金とその対処（痴漢のケース）

ハイリスク状況	対処法
満員電車	乗らない, 音楽を聴く → 環境統制
暇なとき	スケジュールを立てる, 余暇活動 → 時間管理
ストレス	ストレスへの気づきと対処を学ぶ → ストレス・マネジメント
パートナーとの喧嘩	円滑な付き合い方を学ぶ → 対人スキル訓練

治療結果（1）

- 再犯（治療期間中） → 有意差なし
- 治療群2人(2.9%) vs 待機群2人(2.9%)
 - Fisherの正確確率検定 $p=0.68$, ns
 - OR=1.02, 95%CI=0.14 -7.42
- 治療出席回数 → 治療群が有意に出席数が多い
 - 治療群 17.6 ± 6.6 vs 待機群 9.6 ± 9.2
 - $t(118)=5.84$, $p<0.01$
 - Cohen's $d=1.00$, 95%CI=0.64 - 1.36

治療結果(2)

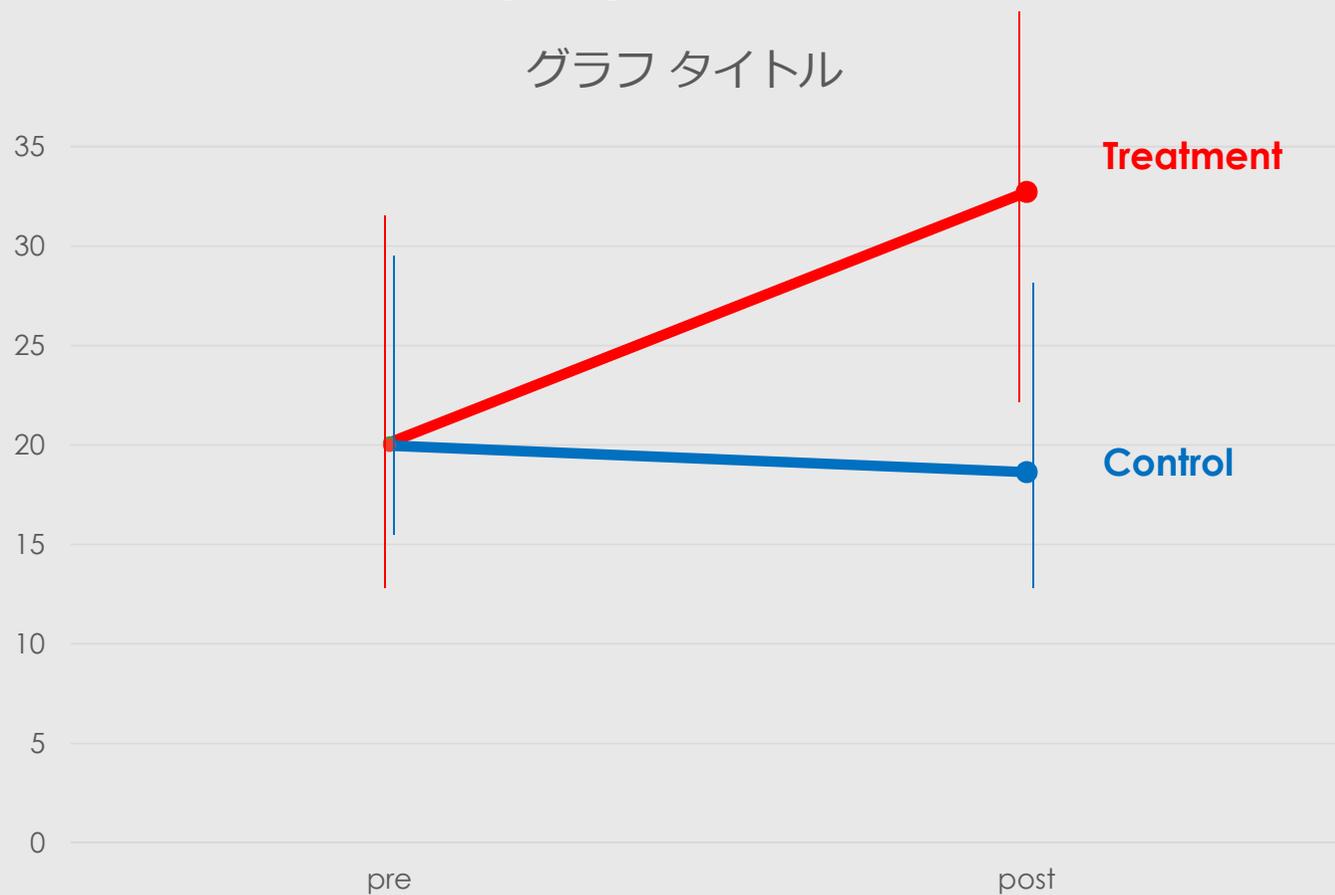
変数	治療群(n=68)		待機群(n=69)		F
	治療前	治療後	治療前	治療後	群X時間
自己効力感	5.87 (3.64)	8.31 (9.43)	6.11 (4.23)	7.55 (3.93)	0.89
コーピングスキル	20.11 (10.64)	32.71 (14.13)	19.97 (8.36)	18.63 (12.77)	8.93**
社会的親密性	115.51 (30.32)	124.50 (23.73)	113.65 (26.20)	105.51 (30.72)	0.56

**p<0.01

- **コーピングスキル**が治療群において、治療後に有意に上昇した

コーピングスキルの変化

グラフ タイトル



再犯に及んだ者の特徴

- 重複障害が多い 54.6% vs 5.7%
- 初発年齢が早い 17.8 ± 4.9 歳 vs 24.7 ± 8.0
- Statci-99 のスコアが大きい
 5.0 ± 1.6 vs 3.3 ± 1.5
- 逮捕回数が多い (有意傾向)
 3.4 ± 1.7 vs 1.9 ± 1.0

再犯した者としなかった者の比較

- 治療中4名， 終結後7名， 合計11名が再犯した

変数	リラプスあり (n=11)	リラプスなし (n=126)	統計量
年齢	32.5±10.3	35.9±9.3	t(136)=1.08
教育 (大卒)	5(45.5)	35(50.0)	X ² (3)=2.41
雇用 (フルタイム)	3(27.3)	36(51.4)	X ² (3)=2.92
婚姻状態 (未婚)	5(45.5)	43(61.4)	X ² (1)=0.45
逮捕回数	3.4±1.7	1.9±1.0	t(135)=3.49*
重複障害	4(33.3)	7(5.6)	X ² (2)=21.03**
初発年齢	17.8±4.9	24.3±8.0	t(135)=-3.99**
Static-99	5.0±1.6	3.3±1.5	t(135)=3.28**

**p<0.01, *p<0.1

再犯に及ぼす影響の大きさ

- これらの変数の影響の大きさを見るために、ロジスティック回帰分析を行った。
- ただし、初発年齢、逮捕回数はStatic-99 の項目であるため、多重共線性を避けるためにStatic-99スコアは投入しないこととした。
- その結果、**重複障害**の影響が最も大きいことがわかった。

Relapse	β	SE	z	p	95%CI	
初発年齢	-0.21	0.11	-2.08	0.04	-0.43	-0.01
逮捕回数	1.12	0.46	0.46	0.02	0.21	2.03
重複障害	3.76	1.52	1.52	0.01	0.77	4.40